

第2回品川区がん対策推進計画策定委員会 議事要旨

令和6年10月23日（水）19時00分～
品川区役所第三庁舎5階 352会議室

■次第

- 1 開会
- 2 健康推進部長挨拶
- 3 委員委嘱・紹介
- 4 いただいたご意見について
- 5 品川区がん対策推進計画（令和7年度～12年度）素案について
- 6 今後のスケジュールについて
- 7 その他
- 8 閉会

1 開会

事務局 （説明）

2 健康推進部長挨拶

これまで皆さんからいただいた意見をもとに次期計画の素案がまとまりました。本日は、それぞれのお立場や専門分野の視点、知見からご意見を頂戴して、さらに充実したものにできればと思います。よろしくお願いいたします。

3 委員委嘱・紹介

事務局 （説明）

4 いただいたご意見について

5 品川区がん対策推進計画（令和7年度～12年度）素案について

事務局 （資料説明）

委員 基本理念の部分で、治療をしている方たちに対する表現が、もう少しうまくできていると良いと思います。また、パンフレットにあるように、アピアランスケアについての表記があると良いと感じました。

事務局 がん患者の方の支援などについての表記を検討します。

委員 資料3-2に示したものと、資料3-4に示したもので目標値が異なっています。「国の指針にないがん検査・検診の廃止」と「仕事との両立支援に関するパンフレット配布先数」についてです。どちらの資料に示してある数値が正しいのでしょうか。

事務局 資料3-4に示した数値で、先ほど説明させていただいた内容が正しいものとなります。間違っている方については、修正をしておきます。

委員 国の指針にないがん検査・検診の廃止については、目標値として「0」を掲げることですが、来年から「0」を目指していく方向ということでしょうか。いつ頃

を考えているのかなどありますでしょうか。

事務局 来年度の予算などについて現在検討中であるため、現時点で来年度からすぐに、ということではありません。計画期間内に「0」を目指すということで示しています。

委員 減らしていく、「0」にしていくけれども、具体的な日程などについては、今後調整をしていくとのことで認識しました。

肺がん検診の受診率が9%と低いと思います。結核検診を行っていることで、肺がん検診と重ねて考えている人も多いようですが、異なっているものであるため、きちんと分かってもらえるように周知などが必要だと思います。

委員長 根拠のある検診をしっかりと行っていくということは重要ですので、情報を正しく伝えてわかってもらうことが大切だと思います。

委員 乳がんの75歳未満年齢調整死亡率について、全国、東京都と比べると高いと思います。乳がんの要因などがありますでしょうか。

委員長 乳がんの死亡率に関しては、都市部で高くなる傾向があります。確実なことはわからない部分もありますが、出産数が少ない、初産年齢が高いことなどが関係していて、品川区についてもそういった傾向があるのではないのでしょうか。

委員 素案18～20ページにて、がん検診の実施状況が示してあります。自己負担金があるものは今後無償化を行っていくなどの考えはありますでしょうか。

事務局 無償化について、他区の状況も調べるなど一定程度検討はしているところです。無料になっているものもありますが、大腸がん検診など、なかなか受診率が上がらないという現状もあります。すべてを無償化したところで、受診率が格段に上がるということも見込めないのではないかと考えています。

委員長 国の指針外の検診をなくすことで、その財源を無償化のために使用するなどはできないのでしょうか。

事務局 素案24ページに示していますが、がん検診を受診しなかった理由についてアンケート調査の結果からは、「費用がかかる」は11.6%で5位となっています。現時点では、費用に関する理由が多く、第1位となっているということではないので、優先度を考えてすぐに無償化という方向では考えていません。

委員 素案9ページには、すい臓がん、肝臓がんのデータがないようです。特にすい臓がんは死亡率が高いと思うので気になりました。

がんは早期発見をすることで、治療につなげ、直すことができると思います。特に、若い世代、中高年世代での早期発見に向けて、検診をできるだけ受けてもらえるような周知や方法があると良いです。

指標にて、「1日に7,000歩以上歩いている人の割合」とありますが、高齢者にはこの歩数設定は厳しいと感じます。年代に合わせた歩数設定があると良いのではないのでしょうか。

委員長 すい臓がんに関しては、現時点で科学的に有効な手法が確立されておらず、検診、人間ドックを受けても発見できないことも多いです。なかなか難しい、課題になっている部分でもありますが、すい臓がんの早期発見につながるものがあれば良いなというところです。

事務局の資料説明でもありましたが、国で示している数値※があるのでそれに従った数値が示してあります。また、健康プランの方も並行して策定が進んでいるので、そちらと整合を図った形になっています。

※「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」や「健康日本 21（第三次）」身体活動・運動分野に関する目標・指標では、成人（20～64 歳）8,000 歩以上、高齢者（65 歳以上）6,000 歩を目標にしている。

委員 病院でも、人間ドックや検診のコースなどですい臓がんの特化したものを作って実施するなどしています。その検診などで発見できる方もいますが、どうしても発見できず漏れてしまう方もいます。発見するのも限界があるので、開業医の先生方に、こういった兆候があれば専門の病院につないでくださいというような周知・活動を行っているところではあります。

委員 罹患後の相談体制・窓口に関して、色々あると思いますが住みわけがよくわかりません。どのような相談だと、こういった窓口に行けば良いというような区別はあるのでしょうか。

事務局 それぞれ特徴などはあるため違いはあります。がん相談支援センターは病院内にありがん診療科とつながっていることから、どちらかといえば医療寄りの相談がしやすいと思います。一方、マギーズ東京に関しては、がんになってしまった方が、この先どうしようか整理ができていない場合などに、心地よい落ち着いた環境でじっくりとお話をしながら今後のことを一緒に整理したり、アドバイスをしたりなど、患者等に寄り添った支援を行っています。

委員 マギーズ東京では、がんになってしまった方が、不安を抱えている、モヤモヤを抱えている状態の時などに利用してもらえると良いです。くつろげる建物、環境でじっくりとお話をして、解決に向けたアドバイスをしています。

事務局 こういった団体などの紹介は計画内にコラムで掲載できると良いと考えています。
住みわけ、区分については、区の方でご提示するということではなく、区民の方がそれぞれ行きやすい、利用しやすいところに、まずは訪ねていただく方が良いと考えています。例えば、最初の窓口で相談を受ける側として、相談を受ける内容が少し異なるという場合には、より適切な、専門的な窓口につなげ、紹介ができるような形にしていけると良いと考えています。

委員 治療のことや薬のことなど、患者さんとしては色々な心配があると思います。薬剤師やかかりつけ医などに頼ることも視野に支援が行っていけると良いです。

委員 がん患者の方への支援というところでは、がん手術前に口腔ケアが重要になってきます。また、在宅療養患者で口腔ケアが必要な場合は歯科訪問診療を実施していることなども示してもらえると良いと思います。歯科医師会としても連携を図っていきたいと考えています。

委員長 お話にあったように、薬剤師会、歯科医師会などとも連携を図りながら進めていけると良いと思います。

主要死因（年齢別）をみると、75 歳以上はがん以外の死因も多くなっていますが、若い世代はがんでの死亡割合が特に高いので、対策を進めていくことが必要だと思います。予防に加えて、検診の受診率を上げていくことが重要になってきます。

6 今後のスケジュールについて

事務局 （資料説明）

各委員 （特になし）

7 その他

事務局

(説明)

8 閉会

以上